
朝の約五分の出来事

呪理阿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝の約五分の出来事

【Nコード】

N2885Q

【作者名】

呪理阿

【あらすじ】

朝起きたら猫になっちゃってました。

人間に戻るため、壮大な冒険が始まる・・・なんて話じゃありません。

朝の五分くらいで解決しちゃったのです。

話が必要がどこにあるのか不明なお話ですが読んでみてくださいな。

おはようございます。光です。

誰？とか言わないで下さい。高山光たかやまひかりですよ。

「おとーさんが語るお話　桃太郎」の語り手、忍しのお姉ちゃんあねちゃんの妹ですよ。

知らない人は読んでください。読まなくても大丈夫なんですけどね。

あのお話は私がいたからこそ出来たんですよ。えへん。

はい、自己紹介はここまでにして。私は今とてつもなくびっくりしています。

……びっくりしているのになんでこんな喋り方なのか？

ほっといてください。私は元からこんな喋り方なのです。

えーと、何にびっくりしているかと言いますとね。

……私、朝起きたら猫になっちゃってるんですよ。

ナンデ？

いえ、猫には前からなつてみたいな〜と思っていたので何の問題も無いのですが〜。

・・・ハテ？今「いやそこ問題だろっ!？」というお姉ちゃんの声が聞こえたような・・・。

まあ、いいです。とりあえず一階に下りましょう〜。

「ハア？猫になつたあ!？」

最初に会つたのはお姉ちゃんでした〜。

お姉ちゃん凄いですよ〜。猫語がわかるんです〜。

小さい頃から猫ににゃーにゃー話しかけてたらわかっちゃったらしいんです〜。

ナンデ？

まあそんな訳で今にゃーとしか話せない私にとってはものすごくありがたい存在です〜。

・・・最初いきなり外につまみ出されかけたんですけどね〜・・・。

「何をどうしてどうやったらそんなことになった!？」

お姉ちゃん、興奮気味です〜。

『わかんない。朝起きたらこうなってたの』

『の中には猫語です。』

「ハア？・・・光、アンタ最近猫に悪さした？猫を蹴ったとか蹴ったとか蹴ったとか」

全部蹴ったになってます。

『そんなことしてないよ。なんで？？』

「いや、昨日学校帰りにね、猫のオクサマの噂話でどこの猫が蹴られたとかいう情報を盗み聞きしたからさあ・・・」

わざわざ「盗み聞きした」というのがお姉ちゃんです。

正直でよろしい。

『でも猫にもオクサマとかあるんだね』

「いや、その話してたのは子猫なだけだね。

口調が何か漫画でよくあるオクサマの噂話風だったからさ」

もしそれが人間だったら変な子だね。

「さて、それはそうと何で光は猫になったのか・・・」

お、お姉ちゃんが考え込んでる。

これ、ものすごく珍しい光景なんですよ〜。

だっってお姉ちゃん何でも勘で当てちゃうんですもん〜。

『あ、あの〜、すみません……』

『あれ〜、誰か外で謝ってるよ〜。私を猫にした犯人かな〜』

「んな馬鹿な」

お姉ちゃん、そう言いながら窓を開けます〜。

そこには黒猫が一匹〜。かあいいです〜。

『あ、すみません、え〜、とあのですね』

『話し進んでないよ黒猫君？』

お〜、お姉ちゃんの猫語発動〜。

『あ、ごめんなさい。そっちの猫の方……元人間ですよね？』

『そ〜ですよ〜』

『ごめんなさい間違えました!』

間違い電話〜？

『え〜とですね、実はですね……』

この黒猫さんのお話には『え〜と』とか色々余計なモノが入っていたのでそれをまとめますと〜。

・昨日、黒猫さんは人間の女の子に蹴られた。

・なので、仕返しをしようと魔法をかけてその子を猫にしようとした
・そしたら、コントロールをミスって私が猫になってしまった〜

「理由ばかりし・・・」

「ごもつとも〜」。

『え〜、と私はどうやってたら人間に戻れる〜?』

『え〜とですね、寝てください。起きたら直ってます。それでは』

あ、黒猫さんいっちゃった〜。

「てな訳で、寝ろ。光」

『りょうか〜い』

寝るの得意なんですよ〜私。

おやすみなさい〜。

起きたら人間に戻ってました。

お姉ちゃんに聞いてみたら夢ではないらしいです。

結局何だったんですかね、ホント。

あの黒猫さんどこ行ったのかな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2885q/>

朝の約五分の出来事

2011年1月28日10時36分発行